

授業科目名	リスクマネジメントと災害支援	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・金谷 潤子（看護師）		
授業概要・目的	介護保険制度施行以降、介護福祉分野に、リスクマネジメントの概念が持ち込まれた。ここでは、リスクマネジメントの考え方、実践方法を学ぶとともに、近年、増えている災害に対する介護福祉士の役割や支援方法を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護分野に関係するリスクマネジメントの概念を理解する。 ・リスクマネジメントの手法を習得する。 ・災害時における介護福祉士の役割、支援方法を理解する。 		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護における安全の意義とリスクマネジメント		
2	介護施設におけるリスクマネジメント		
3	介護施設におけるリスクマネジメントの実際①—危険予知トレーニング—		
4	介護施設におけるリスクマネジメントの実際②—危険予知トレーニング—		
5	介護従事者におけるリスクマネジメント		
6	ヒューマンエラーと人間的特性		
7	エラーチェーンと SHEL モデル①		
8	エラーチェーンと SHEL モデル②		
9	介護現場で多い危険とその対策①（転倒）		
10	介護現場で多い危険とその対策②（身体拘束）		
11	災害対策のためのリスクマネジメント①（災害とは）		
12	災害対策のためのリスクマネジメント②（福祉施設での取り組み）		
13	災害対応における介護福祉士の役割①		
14	災害対応における介護福祉士の役割②		
15	災害による避難所運営の模擬支援		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ』／中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護予防とリハビリテーション	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明 (看護師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー) 片岡 淳 (日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー) 小澤 光子 (作業療法士)・田中 勝 (理学療法士)		
授業概要・目的	1. 対象に応じた、運動による介護予防方法の実施・指導方法を学ぶ。 2. 日常生活活動に応じた、リハビリテーション方法について学ぶ。		
到達目標	1. 対象に応じた、介護予防運動プログラムを立案し、指導実践を理解する。 2. リハビリテーション方法を理解し、介護支援に応用できる能力を習得する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護予防を必要とする対象の心身機能について 運動前の健康チェック方法について		
2	体力測定と評価方法の理論と実践		
3	運動疾患を引き起こす、静的姿勢と・動的姿勢について		
4	介護予防運動指導の方法と実践① (いろは体操指導)		
5	介護予防運動指導の方法と実践② (いろは体操指導)		
6	関節可動域訓練の理論と実践		
7	筋力増強法の理論と実践		
8	起き上がり動作、座位保持・座位移動に関わるリハビリテーション理論と実践		
9	歩行動作に関わるリハビリテーション理論と実践		
10	障がい・疾患によるリハビリテーション理論と実践 (呼吸器リハビリ)		
11	コミュニケーションに対するリハビリテーション理論と実践		
12	食事に対するリハビリテーション理論と実践		
13	更衣に対するリハビリテーション理論と実践		
14	整容・排泄に対するリハビリテーション理論と実践		
15	入浴に対するリハビリテーション理論と実践		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、出席状況、レポート		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解』／中央法規出版		
参考図書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー教本 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト		

授業科目名	生活支援技術Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・吉波 美穂子（作業療法士）・高崎 信弘（作業療法士）		
授業概要・目的	1. 対象が尊厳を保持しながら、主体的に生活が継続できる支援技術を学習する。 2. 疾患や障害に応じて、安全に適切な生活支援の知識・技術について習得する。 3. 対象の自立に向けた、介護実践の根拠について説明できる。		
到達目標	1. 肢体不自由に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 2. 視覚・聴覚・言語・重複障害に応じた、安楽・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 3. 知的・発達障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 4. 高次脳機能障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		
2	肢体不自由に応じた介護①		
3	肢体不自由に応じた介護②		
4	肢体不自由に応じた介護③		
5	肢体不自由に応じた介護④		
6	視覚障害者に応じた介護①		
7	視覚障害者に応じた介護②		
8	聴覚・言語障害に応じた介護①		
9	聴覚・言語障害に応じた介護② 重複障害に応じた介護		
10	知的障害に応じた介護①		
11	知的障害に応じた介護②		
12	発達障害に応じた介護①		
13	発達障害に応じた介護②		
14	高次脳機能障害に応じた介護①		
15	高次脳機能障害に応じた介護②		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・吉波 美穂子（作業療法士） 高崎 信弘（作業療法士）・渡邊 純子（作業療法士） 館川 美貴子（管理栄養士）・宮崎 卓也（薬剤師）		
授業概要・目的	1. 対象が尊厳を保持しながら、主体的に生活が継続できる支援技術を学習する。 2. 疾患や障害に応じて、安全に適切な生活支援の知識・技術について習得する。 3. 対象の自立に向けた、介護実践の根拠について説明できる。		
到達目標	1. 内部障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 2. 重症心身障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 3. 精神障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 4. 難病に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	内部障害① 心臓機能障害に応じた介護		
2	内部障害② 呼吸機能障害に応じた介護		
3	内部障害③ 腎臓機能障害に応じた介護		
4	内部障害④ 膀胱・直腸機能障害に応じた介護		
5	内部障害⑤ 小腸機能障害に応じた介護 HIVによる免疫機能障害に応じた介護		
6	内部障害⑥ 肝臓機能障害に応じた介護		
7	内部障害⑦ 内部障害の観察視点について		
8	内部障害⑧ 内部障害の食事療法に対する介護		
9	内部障害⑨ 内部障害の薬物療法に対する介護		
10	重症心身障害に応じた介護①		
11	重症心身障害に応じた介護②		
12	精神障害に応じた介護①		
13	精神障害に応じた介護②		
14	難病① 筋萎縮性側索硬化症（ALS）・パーキンソン病に応じた介護		
15	難病② 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術V（手話・点字）	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	山崎 清之（手話通訳士）・宮口 覚（盲学校特殊教科教諭一級普通免許）		
授業概要・目的	〔手話〕 講義・DVD 教材の視聴・実技・耳の聞こえない人を招いての交流を通じて、「手話」実技と「耳の聞こえない人たちの暮らし」の実際を学ぶ。 〔点字〕 ①視覚障害による不自由さを理解する。 ②点字の概要や障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。		
到達目標	〔手話〕 耳の聞こえない人たちとのコミュニケーションの実際を学び、手話や身ぶりを使って一通りに自己紹介と基本的な日常会話ができるようにするとともに、聞こえない人たちの暮らしの実際を学ぶ。 〔点字〕 視覚障害者の不自由さ、点字の概要を理解し応用できる力を養う。		
講 義 内 容			
後 期			
1	〔講義〕 耳の聞こえない人たちとのコミュニケーション 〔実技〕 身ぶりで伝えあってみよう		
2	〔実技〕 名前を表してみよう・家族の紹介をしてみよう		
3	〔講義〕 ろう教育 〔実技〕 趣味を表してみよう・ここまでの実技の振り返り		
4	〔実技〕 指文字を覚えよう		
5	〔実技〕 指文字の振り返り・数字を使ったいろいろな表現を覚えよう		
6	〔講義・実技〕 「ろう」の人の話を聞こう		
7	〔講義〕 耳の聞こえない人たちの生活 〔実技〕 住所の表し方・地名の表し方を覚えよう		
8	〔実技〕 一日・一ヶ月・一年・季節等の表し方を覚えよう・仕事の表し方を覚えよう		
9	〔講義〕 聞こえの仕組みと実際 〔実技〕 自己紹介のまとめ		
10	〔実技〕 「ろう」の人と手話や身ぶりを使って話をしよう		
11	点字の概要／構成と歴史／視覚障害者と点字／五十音の書き方①視覚障害の不自由について		
12	点字の書き方②（五十音、仮名遣い、分かち書き、複合語内の切れ続き）		
13	点字の書き方③（特殊音、固有名詞、称号、見出し、文の書き方）		
14	点字の書き方④（記号、数字、アルファベット等）視覚障害者の移動方法		
15	点字を実際に書いてみよう（手紙、案内文）		
授業形態	演習		
評価方法	〔手話〕 授業態度、出席率、ミニレポート、試験 〔点字〕 課題、授業中の取り組み、テスト等		
テキスト	〔手話〕 今すぐはじめる手話テキスト『聴さんと学ぼう！』／ 一般財団法人 全日ろうあ連盟 〔点字〕 『初めての点訳 第3版』／全国視覚障害者情報提供施設協会 『点字の手引き 第3版』／全国視覚障害者情報提供施設協会		
参考図書			

授業科目名	次世代型生活支援技術	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）久保 健（スマート介護士 Expert）		
授業概要・目的	介護を必要とする対象者やその家族へのより良い介護サービスの提供に向け、介護ロボットや IT の活用など新たな介護サービスが進められている。ここでは、介護ロボットや IT など次世代の介護サービスの知識、技術を学習します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットの概念や意義を理解する。 ・生活場面に応じた多様な介護ロボットや I T などの活用方法を理解する。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	これからの介護業界の展望		
2	介護ロボット概論～概念と意義		
3	介護ロボットに関する倫理と自立支援		
4	介護ロボットの使用方法とリスク管理		
5	介護ロボットの種類と方法①（移動・移乗）		
6	介護ロボットの種類と方法②（コミュニケーション・見守り支援）		
7	介護ロボットの種類と方法③（排泄、入浴）		
8	介護ロボットの種類と方法④（介護業務支援 記録等）		
9	認知症と介護ロボットを活用した支援①		
10	認知症と介護ロボットを活用した支援②		
11	リモートを活用した遠隔介護（ICT）		
12	介護ロボットを活用した実践展開①		
13	介護ロボットを活用した実践展開②		
14	介護ロボット施設見学		
15	介護ロボット施設見学		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第 6 巻 生活支援技術 I 』/中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護過程Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・前坂 宣明 (看護師)・金谷 潤子 (看護師)		
授業概要・目的	学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合し、個別の事例を通じて、その人らしさを活かした介護過程を展開する能力および実践する能力を習得する。		
到達目標	1. 介護計画の立案ができる。 2. 具体的な援助内容を立案できる。 3. 実施した結果から考察・評価することができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護過程の理解① ー介護計画とはー		
2	介護過程の理解② ー介護計画の立案 介護目標の設定についてー		
3	介護過程の理解③ ー介護計画の立案① アセスメントから介護目標設定までー		
4	介護過程の理解④ ー介護計画の立案② アセスメントから介護目標設定までー		
5	介護過程の理解⑤ ー介護計画の立案③ 発表 ー		
6	介護過程の理解⑥ ーその人らしさを深めるー		
7	介護過程の理解⑦ ーその人らしさを深めるー		
8	介護過程の理解⑧ ーその人らしさを深める・発表ー		
9	介護過程の理解⑨ ー実施ー		
10	介護過程の理解⑩ ー結果ー		
11	介護過程の理解⑪ ー考察・評価ー		
12	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開① ー事例ー		
13	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開② ー事例ー		
14	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開③ ー事例ー		
15	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開④ ー事例・発表ー		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、出席状況、課題		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』／中央法規出版		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		

授業科目名	介護過程Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）、山崎 百合子（社会福祉士、主任介護支援専門員）		
授業概要・目的	利用者の生活支援に必要なケアマネジメントおよび社会資源の活用などについて理解する。チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解するとともに、災害支援、介護ロボットの活用など場面に応じた介護過程の展開方法を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントの概念について理解する。 2. 社会資源の把握と活用の意義を理解する。 3. チームアプローチにおける介護福祉士の役割やあり方を理解する。 4. 場面に応じた介護過程の展開ができる。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	ケアマネジメントの全体像・定義、歴史的背景		
2	日本におけるケアマネジメントの変遷		
3	個別援助計画とケアプランの関連性		
4	チームアプローチにおける介護福祉士の役割と意義		
5	チームアプローチにおける介護福祉士の役割（事例演習）①		
6	チームアプローチにおける介護福祉士の役割（事例演習）②		
7	チームアプローチによる事例検討①		
8	チームアプローチによる事例検討②		
9	地域にある社会資源の把握と活用の意義		
10	地域にある社会資源の実際の理解①		
11	地域にある社会資源の実際の理解②（発表）		
12	場面に応じた介護過程の展開①		
13	場面に応じた介護過程の展開②		
14	場面に応じた介護過程の展開③		
15	場面に応じた介護過程の展開④発表		
授業形態	講義・演習		
評価方法	筆記試験、出席状況、課題		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』/中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	事例研究	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・前坂 宣明 (看護師) 金谷 潤子 (看護師)・小林 宣世 (パソコンスクール代表)		
授業概要・目的	事例研究の目的・意義を理解し、介護過程実習を通して実践した展開方法をまとめ、発表する方法を習得する。また、発表することで自己の展開の振り返りや他者の発表内容から実践方法の多様さを学習する。		
到達目標	1. 研究的視点をもって抄録を作成することができる。 2. 発表原稿、発表資料を作成し、わかりやすく発表することができる。 3. 新たな課題を見つけることができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	事例研究の意義・目的		
2	抄録作成の計画・文献調査		
3	抄録作成①		
4	抄録作成②		
5	抄録作成③		
6	担当教員からの面接指導・抄録修正①		
7	担当教員からの面接指導・抄録修正②		
8	プレゼンテーションの方法① －プレゼンテーションソフトの概要、オブジェクトの種類と入力方法－		
9	プレゼンテーションの方法② －マスターデザインとページレイアウトの利用、プレゼンテーションの構成方法、印刷出力、スライドショー、効果的なプレゼンテーション技法－		
10	プレゼンテーションの方法③ －プレゼンテーションの構成－		
11	プレゼンテーションの展開方法① －担当教員からのプレゼンテーション技法の指導－		
12	プレゼンテーションの展開方法② －担当教員からのプレゼンテーション技法の指導－		
13	事例研究発表会① リハーサル		
14	事例研究発表会②		
15	事例研究発表会③		
授業形態	演習		
評価方法	レポート、出席状況を合わせて評価する。		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	介護総合演習Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）・金谷 潤子（看護師） 前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	「その人らしく生活する」を支援するために、様々な福祉サービスの種類・特性を理解する。また、支援に求められる技術・知識を深め、実践力を身につけるための学習をする。		
到達目標	1. 様々な福祉サービスの種類・特性が理解できる。 2. 実習に必要な調理、掃除、挨拶の基本を身につけることができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護実習Ⅱ（介護過程その1）の概要		
2	介護実習Ⅱ＜介護過程その1＞の心得と実習記録・課題の作成方法①		
3	実習記録・課題の作成方法②		
4	実習前最終確認		
5	実習後の自己評価と整理		
6	介護実習Ⅰ 訪問介護実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
7	訪問介護実習の心得と実習記録・課題の作成方法		
8	訪問の技術の確認（コミュニケーション・挨拶の仕方等）		
9	介護実習Ⅰ グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
10	グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習の心得と実習記録・課題の作成方法		
11	実習後の自己評価と整理		
12	総合実習 ステップアップ実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
13	ステップアップ実習の心得と実習課題の作成方法、記録の方法と実際		
14	実習後の自己評価と整理・ステップアップ実習発表会準備		
15	ステップアップ実習発表会		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況、発表会を合わせて評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護総合演習Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）・金谷 潤子（看護師） 前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	各領域や実習で学んだ知識・技術を統合し、研究の視点を持った介護過程の展開を実践できるよう学習する。ケースカンファレンスで他職種の意見を求められるよう、進行方法を習得する。		
到達目標	1. 介護過程と事例研究の関係性を理解することができる。 2. 介護過程の展開を実践し、記録することができる。 3. カンファレンスを進行することができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	介護実習Ⅱ（介護過程その２）の概要		
2	介護過程実習と事例研究との関係性①－理解－		
3	介護過程実習と事例研究の関係性②－展開方法－		
4	実習課題の作成方法①		
5	実習課題の作成方法②		
6	介護実習Ⅱ（介護過程その２）で想定される実習先の理解① 障がい者施設見学		
7	介護実習Ⅱ（介護過程その２）で想定される実習先の理解② 障がい者施設見学		
8	介護過程の確認①（アセスメント・課題の明確化）		
9	介護過程の確認②（アセスメント・課題の明確化から介護計画の立案へ）		
10	介護過程の確認③（介護計画の立案から実施・結果・考察）		
11	介護過程の確認④（介護の実施・結果・考察から評価へ）		
12	介護過程の確認⑤（展開のまとめ）		
13	ケアカンファレンスの実践 事例発表を通して		
14	ケアカンファレンスの実践 事例発表を通して・実習前最終確認		
15	実習後の自己評価と整理		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I <訪問介護実習>	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	<p>地域社会で暮らす高齢者や障がいのある人が、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活から個別ケアの実践の重要性を学ぶ。</p> <p>対象の生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における訪問介護サービスの目的及び機能等について理解する。 2. 訪問介護事業及び利用者の概要について理解する。 3. 利用者並びに家族が求めている介護ニーズの理解をする。 4. 利用者の介護ニーズに応じた日常生活援助の方法について考え、援助する。 5. 訪問介護サービスの活動の実際を通し、地域福祉・保健・医療等、連携について理解する。 		
実 習 内 容			
<p>配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I ＜グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	地域社会で暮らす高齢者や障がいのある人が、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活から個別ケアの実践の重要性を学ぶ。対象の生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域密着型サービス機関の目的・役割・構造及び利用者の概要について理解する。 2. グループホームや小規模多機能型居宅介護の実際を理解する。 3. 利用者並びに家族が求めている介護ニーズの理解をする。 4. 利用者の介護ニーズに応じた日常生活援助の方法について考え、援助する。 5. グループホームや小規模多機能型居宅介護活動の実際を通し、地域福祉・保健・医療等、連携について理解する。 		
実 習 内 容			
<p>下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I ＜ステップアップ実習＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	多職多様な福祉施設の支援や地域社会との連携を学習し、福祉分野における視野の拡大や考え方の醸成を図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の目的・役割・構造について理解する。 2. 介護利用者の一日の生活の流れや特性について理解する。 3. 介護利用者の生活を理解し、基本的な日常生活援助が実施でき、障害に応じた介護方法について考える。 4. 福祉分野の現場において、社会福祉制度及び関連する諸機関との連携方法について知識を深める。 5. 介護福祉士としての介護観を深める。 		
実 習 内 容			
<p>下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習Ⅱ ＜介護過程－その1－＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	2 単位 90 時間
授業概要・目的	対象者の施設生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。 受け持ち利用者に対して、介護過程（アセスメント計画の立案の目標設定まで）ができ、個別ケア実践の重要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護利用者の主体性を引き出すコミュニケーションをする。 2. 本人主体の生活を支援するための方法について学ぶ。 3. 介護過程（アセスメントから介護目標の設定まで）ができ、個別ケアの重要性を学ぶ。 4. 介護活動の実際を通し、他職種（サービス担当者会議・カンファレンス等）との連携の方法について知識を深める。 		
実 習 内 容			
下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		

授業科目名	介護実習Ⅱ ＜介護過程－その2－＞	実施時期	2 学年 後期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	4 単位 180 時間
授業概要・目的	受け持ち利用者に対して一連の介護過程が展開できる。介護を理論的根拠に基づいて考察することができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護利用者の主体性を引き出し、よりよいケアを行うためのコミュニケーションをする。 2. 本人主体の生活を支援するための方法について考える。 3. 介護過程（アセスメントから評価まで）を自立支援、安全と安心、尊厳の保持の視点で援助方法を考え、実践的展開をする。 4. 介護活動の実際を通し、他職種（サービス担当者会議・カンファレンス等）との連携を実践する。 		
実 習 内 容			
<p>下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		